

1 目指す学校像

長い歴史と伝統を踏まえつつ、日々の教育活動を改善してより充実させることにより、生徒の満足感、保護者の安心感、地域の信頼感、教職員の充実感が高い学校づくりを進める。比較的規模の大きい定時制高校としてのスケールメリットを活かした特色ある教育活動を展開し、夜間定時制高校として昼間の就労体験を活かした教育活動を実践する。これらの取組によって社会において即活躍できる人材を育成することに努めるとともに、地域の拠点校としての期待に応える学校づくりを推進する。また、全日制課程・定時制課程併置校としての特色を生かすとともに、それぞれの課程の教育内容を共有・尊重し、お互いに協力し合いながら、一体感のある学校づくりを目指す。

2 中期的目標と方策

本校に入学する多様な生徒に、社会において活躍できるための「生きる力」を確実に身に付けさせるとともに、教職員が一丸となって生徒の自己実現を支援する。

(1) 基礎的な学力の保障

自己理解を深め目的意識をもった進路選択ができるようにするために、意欲的に学習に取り組む態度を育み、確かな学力の定着を図る。

- ①多様な生徒の学力の実態を踏まえ、計画的・系統的な指導により授業時数を確保したり、学習の遅れを取り戻すための補習等を実施したりすることにより、基礎的な学力の定着を図る。
- ②主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、アクティブ・ラーニングの視点に立った学習指導の充実を図る。
- ③ICTの活用や教材・教具の工夫などにより、生徒の学習への興味・関心を引き出すとともに、個に応じた指導を進め、効果的な理解の促進を図り確かな学力を身に付けさせる。
- ④日本語を母語としない生徒に対して取り出し授業を行うなど、基礎学力を定着させる支援を行う。
- ⑤学校図書館の機能を生かした読書活動を推進し、読書習慣の定着を図って幅広い教養を身に付けさせる。

(2) 基本的生活習慣や社会規範の体得とキャリア教育の推進

- ①組織的かつきめ細かな生活指導をとおして、基本的生活習慣や社会規範を身に付けさせ、規律ある学校生活を送ることができるようにする。
- ②ホームルーム活動、学校行事、生徒会活動等の特別活動や部活動を充実させて活性化を図る。
- ③計画的な進路指導に取り組み、卒業時の正規雇用希望者の増加や内定率の向上を図るとともに、上級学校への進学も含めた希望の進路の実現を支援する。
- ④昼間における就業を推奨し、社会体験と学校における教育活動との相乗効果及び効果的な連携により、社会規範の体得と目的意識を高め、希望の進路の実現を図る。
- ⑤高校生で取得できる様々な資格等へのチャレンジを促進し、就職や上級学校への進学等の生徒の進路選択に活かせるよう指導する。

(3) 地域・関係機関との連携等

- ①「自立支援チーム」の活用を推進するとともに、引き続き「あだち若者サポートステーション」、「ハローワーク」等外部機関を活用し、生徒の進路実現を図ると同時に就学条件を整える。
- ②地域の特性や生徒及び保護者の願いなどを十分に把握し、今後の方向性を検討して、地域の期待に応えられる組織的な学校づくりを推進する。
- ③家庭・地域、PTA奨学会などとの連携をより一層強化し、学校行事等を充実させて、本校の教育活動についての理解促進に努め、開かれた学校づくりを進める。

- ④年間を通じて学校の教育活動についての積極的な広報に努め、本校で学びたいという意欲や目的意識をもった生徒の受け入れを促進する。

3 今年度の取組目標と方策

(1) 基礎的な学力の保障

- ①授業4原則（・始業時間の厳守・終業時間の厳守・授業規律の確保・授業内容の工夫）を遵守した「力のつく授業」を実践し、一人ひとりの基礎学力の定着を図る。
- ②各教科で次期学習指導要領の学習内容の研究を進め、「主体的で対話的な深い学び」を実現するために、知識・技能を基盤とした思考力・判断力・表現力等の育成と、学びに向かう力や主体性を高める授業を実践する。
- ③ICT機器の活用を促進し、効果的な理解の促進や生徒の興味・関心を高める学習指導を実践するとともに、出席率を向上させ、学校への定着を図る。また、オンライン授業、BYOD、生徒端末活用等について実施に向けての準備を行う。
- ④学校行事の精選、教育課程の工夫によって、授業時数をさらに確保する。また、始業前や放課後の補習や長期休業中の補習を充実させ、学習の遅れを取り戻す。
- ⑤日本語を母語としない生徒の状況に応じて、取り出し授業を行うなど、授業での学習を支援する。
- ⑥通級指導が必要な生徒に対して、都の指導に基づき組織的に適正な通級指導を実施する。
- ⑦英語検定、漢字検定、情報検定、商業検定等の各種検定の積極的な受検を促し、学習の動機付けとするとともに、希望する進路の実現に生かせるようにする。
- ⑧教科等において主権者教育を実施することで、計画的に政治的教養や政治的活動についての判断力を育成する。
- ⑨スポーツへの関心を高め、進んで国際交流を図ろうとする態度を養うために、オリンピック・パラリンピック教育を推進する。
- ⑩図書委員会を中心として、読書活動の充実を図り、読書の習慣を定着する。

- 【数値目標】**
- ・「分かりやすい授業」への生徒の肯定的評価 90%（昨年度84%）
 - ・始業前や放課後の補習、長期休業中の講習の実施 20講座（昨年度4、一昨年度14）
 - ・読書活動への積極的態度 80%（昨年度67%）
 - ・読書の未読者率 10%以内（一昨年度12.2%）

(2) 生活指導の徹底

- ①ホームルームや学年集会などにおいて、きめ細かい生活指導を実施し、規範意識を醸成し、学校生活のルールを遵守することを徹底する。
- ②年3回の生徒対象のアンケート等を実施し、いじめや暴力行為、また体罰などの行為の根絶を図る。
- ③心と体の健康を保つ指導や自尊意識を高める取組をとおして、生命尊重教育の実践を推進する。
- ④スクールカウンセラー（SC）及びユース・ソーシャル・ワーカー（YSW）と連携を図り、校内の教育相談を充実させる。
- ⑤計画的な避難訓練をとおして、防災意識を向上させる。
- ⑥セーフティ教室などをとおして、薬物乱用防止教育や交通安全教育の充実を図る。
- ⑦地域連絡協議会などを開催し、家庭や地域社会との連携を進める。

- 【数値目標】**
- ・ルール遵守の定着度 100%（昨年度84%）
 - ・避難訓練 年4回（昨年度1回、一昨年度4回）
 - ・交通事故発生件数 0件（昨年度0回）
 - ・教育相談委員会（管理職・SC・YSW・養護教諭・学年担任代表・自立支援中核教員・特別支援教育コーディネーター） 年10回開催（昨年度10回）

(3) 進路指導の推進

- ①「進路の手引き」及び「進路だより」を活用した進路指導を行うとともに、進路活動推進週間の充実を図り、生徒の進路意識を高め、具体的な行動につなげる。
- ②自立支援中核教員が中心となって、「自立支援チーム」を活用し、就学条件の整備や在学中及び卒業後の就労支援の充実を図り、生徒の進路実現を推進する。
- ③教科「人間と社会」等をはじめとして、ホームルーム活動や総合的な学習の時間をとおして、道徳教育及びキャリア教育の充実を図る。
- ④昼間における就業を推奨し、学校教育活動との効果的な連携により、社会規範体得と希望進路の実現を図る。
- ⑤「キャリアパスポート」を活用し、系統的なキャリア教育の実現を推進する。

【数値目標】 ・進路相談に関する生徒の肯定的意見 90% (昨年度90%)
・進路未決定者の縮減 10%未満 (進学準備者は除く) (昨年度8.5%)
・在校中の就業率の向上 (アルバイトを含む) 80% (昨年度79%)

(4) 健康づくりと校内美化

- ①清掃活動を推進することによって、美化意識の向上を図る。
- ②健康診断の受診を促進し、自らの健康への意識付けを行う。
- ③外部機関を活用した保健講話やセーフティ教室をとおして、薬物問題や健康課題への意識を高める。
- ④教員全体で給食指導を行うとともに、栄養士と連携を図り、「リクエスト給食」や「お試し給食」などを実施し、食(給食)への関心を高める。また、保健体育科や家庭科等の授業をとおして、食育の推進を図る。
- ⑤新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の取組を、都のガイドラインに基づいて確実に実施し、安心・安全な教育環境を維持する。

【数値目標】 ・保健教育・指導のための講話等の開催 年3回実施 (昨年度3回)

(5) 特別活動の活性化

- ①部活動への参加を奨励し、部活動の充実を図る。
- ②文化祭・HR合宿・校外学習・修学旅行などの学校行事を充実させ、学校への帰属意識を高める。
- ③生徒の自主的な活動を促し、生徒会活動を活性化する。
- ④体育の授業と連携しながら、体育的行事や部活動を通して生徒の体力の向上に取り組む。

【数値目標】 ・部活動の取組に対する肯定的評価 70%以上 (昨年度70%)
・学校行事の取組に対する肯定的評価 75%以上 (昨年度77%)

(6) 外部連携と開かれた学校づくり

- ①計画的に地域連絡協議会を開催し、地域との連携を強化する。
- ②小学校や地域と連携した文化祭の実施や体験授業などの公開を推進するとともに、学校運営連絡協議会や外部評価を活用し、教育内容の改善を進める。
- ③ホームページのリニューアルを行い充実させ、定期的に更新することによって、学校の広報活動を推進する。
- ④学校説明会、体験授業、授業公開及び個別相談会を充実させ、入学希望者の本校の教育活動への理解を促す。

【数値目標】 ・文化祭、体験授業、学校説明会、個別相談会への参加者数500人(一昨年度368人)

(7) 学校経営

- ①令和4年度以降の本校教育課程について、導入後のより効果的な運営について検討を進める。

- ②「自立支援チーム」との連携を組織的に行い、就学支援や就労支援を充実し、中途退学者を減少させる。
- ③「主体的で対話的な深い学び」を実現するために、校内研修、授業研究の充実を図るとともに、授業見学期間を設定して、相互に授業を参観したり、他校の授業を見学することをおして、教科指導力の向上を図る。
- ④オリンピック・パラリンピック教育の一環として、部活動やボランティアなどで大会運営のスタッフとして「支える」活動や「ボランティアマインド」の育成を推進する。
- ⑤学校行事の適切な実施や必要な校務の再検討等を組織的に行い、効果的でゆとりのある教育活動の実施に向けて見直しを行う。
- ⑥PTA奨学会、学校運営連絡協議会と連携を図り、生徒の支援体制を整える。
 - 【数値目標】 ・校内研修の実施 年6回（昨年度4回）
 - ・「自立支援チーム」との連携 6回（昨年度10回）
 - ・中退者数前年比15%減少（昨年度退学者数20人・62%減）

(8) ライフ・ワーク・バランスの推進

各種会議の効率的な実施や、計画的な仕事の進め方による業務の効率化を図り、教職員一人ひとりのライフ・ワーク・バランスの実現を推進する。

(9) 適正な事務処理と経営企画機能の発揮

- ①個人情報保護の徹底を図り、事故ゼロとする。
- ②学校経営計画に基づいた適正な予算執行及び効率的な予算立案を行う。
- ③就学支援金及び奨学のための給付金について保護者への周知を徹底し、適正に申請を処理するとともに、適切に授業料や学校積立金等を徴収する。
- ④各分掌事務を適正・迅速に執行する。
- ⑤起案に基づく適正な意思決定の徹底を図る。
- ⑥経営企画機能を発揮し、学校の経営力を向上させる。
- ⑦給食の充実を推進し、生徒の「食」に対する意識を向上させる。
- ⑧図書館機能を充実することによって、生徒の読書習慣を定着する。